

■ 授業者より

1 研究について

- ・年間全体を概観し、既習事項や系統を踏まえた言語活動を設定した。
- ・自分の考えの根拠を探したり、疑ったり、再構築したりするための手立てを考えた。
- ・学びを調整しながら学習に取り組んでいるかを見取るためのワークシートを準備したり、評価規準と努力を要する児童への手立てを具体化したりした。

2 単元について

- ・『「ひみtube」になるために、『すみれとあり』で練習したい』という意欲をもたせた。
- ・10,11段落を削除した教材文を提示し、児童が文章構造の意味について自然と目が向くようにした。

3 成果

- ・10,11段落を後半に提示したことで、文章を捉えなおすことができた。
- ・既習教材と比較しながら、「問いと答え」の位置関係、事柄の順序について読むことができた。

4 課題

- ・少数派の児童の考えを広く共有することができなかった。

■ 研究協議（主なものを抜粋）

- ・教材文を隠したことで、児童は書き手の視点で考えることができていたので、効果があったと感じた。
- ・本時の評価は、どのような場面で行ったのか。
→ノートに11,12段落の是非について○か△で書かせた場面で、理由が書けているかを評価した。
- ・「構造と内容の把握」についての物語文の実践はあるのか。
→4年生の「ごんぎつね」では、「兵十がこの話を誰かにしたのか」という問いから、兵十の気持ちについて捉えた。物語の内容解釈だけではなく、構造に迫るような実践を行った。
- ・「ひみtube」として説明するからには、相手が何を分かっているのかを捉える必要があると思うが、そのための活動は何かあったのか？
→今回は4種類の本の中で、自分が紹介したいものを、その本を選んでいない相手に紹介した。自分が初めて知ったことや面白いと思ったことを相手と共有できる言語活動となっている。
- ・「ひみtube」を作る中で、はじめ、中、終わりの構造を意識するような働きかけはあったのか？
→はじめ、中、終わりは、筆者に着目させるための手立てだった。また、写真や文章の書きぶりなどと併せて、筆者の視点に立って考える経験をさせるための手立てでもあった。このような理由から、「ひみtube」を作るときに、はじめ、中、終わりに着目させる言葉掛けはしていない。

■ 指導助言

旭川市教育委員会教育指導課課長補佐
忠海 盛弘 様

1 本時の教師の姿から

- ・子供たち全員が一人一人自分の考えをもち、対話的に学びを深めていた。
- ・授業で発問した時、2割くらいの児童が手を上げていたときに指名をせず、もう一度ゆっくりと問い掛けをして考える時間を設けていた。そのことによって、多くの児童が、自分の考えをもつことができた。本時の教師の手立てから、児童に自分の考えをもたせるためには、指導者が待つことも重要であることが分かった。
- ・児童のつぶやきを促す発問から、全員に自分の考えをもたせた後に、隣と交流をさせていた。準備が整った状態で進めたことで、対話が成立していた。

2 言語活動について

- ・「平成31年度全国学力・学習状況調査 指導の改善策—国語編—旭川市教育委員会」に言語活動の設定の仕方を明記しているので参考にしてほしい。
- ・言語活動を設定する際、単元でどのような資質・能力を身に付けさせたいか（指導事項）を明確に抑えることが重要。
- ・「ひみtube」は、「本の内容にかかわるクイズ」、「一推しポイント」、「自分の感想」で構成されており、この単元に身に付けさせたい指導事項（「構造と内容の把握」、「順序立てて内容の大体を捉えること」と正対しているすばらしい内容だった。
- ・国語科は言語活動を通して指導事項を指導する教科であり、今回の実践はそれを体現したものだ。

■ 指導助言

北海道教育大学旭川校准教授
渥美 伸彦 様

1 授業を通して

- ・批判的な読みの授業だった。実践研究の蓄積はあるが、批判的な読みがなかなか広がっていかないのが説明的な文章の指導の課題。
- ・批判的な読みに低学年の児童が挑戦した。中3の指導事項に「批判的に読む」があるが、小1から中2の間にも発達段階に即して指導しなければ、身に付かない。
- ・学習指導要領に新設された「情報の取り扱い」は、批判的な読みとの親和性が高い。
- ・文章の「終わり」をカットすることで、「はじめ、中、終わり」や「問いと答え」の照応といった文章表現上の順序に思考を誘えると考えて授業が作られていた。

2 成果

- ①低学年における批判的読みの具体化
・「みんなだったら」「納得するか」という発問で批判的読みに誘い、筆者を想定し、読み手として文章を評価していた。
- ②過去と今を結ぶ思考を支える短冊カード
・記憶で既習を振り返るのではなく、俯瞰性のあるもので既習事項と比較することで、考える活動が支えられていた。
- ③読みに主体性をもたらす言語活動の工夫
・「ひみtube」というとてもわくわくする言語活動。ひみtube貯金という名前で継続的に取り組み、最後のクイズとして成立していたのがよい学習だった。

3 今後に向けて

- ・批判的読みを系統的に指導することが我々には求められている。系統的な指導の方法について考えていく必要がある。